

## 知恩寺

知恩寺は天橋立の入り口にある、知恵の仏である文殊菩薩を祀っている寺です。伝説によると文殊菩薩は、いたずら好きな龍を鎮めるために、神々の生みの親であるアメノオシホミノミコトによってこの地に召喚されたといわれます。そして知恩寺は9世紀の初頭に建立されたと考えられています。本堂の正確な建立年ははっきりしませんが、建材の一部には鎌倉時代（1185年～1333年）の物が使われています。知恩寺の本尊は獅子の上に乗った文殊の像で、この像の様式が鎌倉時代のものであることを示唆しています。

天橋立は1871年に国有林となるまで、長年にわたって知恩寺の私有地でした。天橋立に足を運び、成相山を巡礼しに来る観光客にとって、知恩寺は決まって立ち寄り場所となっていました。また歴史的に観光客は知恩寺の敷地から出航する小舟で、砂州に運ばれていたようです。

知恩寺の多宝塔は、宮津市で最古の木造建築で1904年に重要文化財に指定されています。この多宝塔は1501年に建てられ、雪舟（1420年～1506年）の有名な「天橋立図」でも描かれていたため、美術史家がこの作品が描かれた年代を特定するのにつながったのです。この多宝塔には珍しい亀原（縁の下に漆喰で固めた土盛り）があり、中には大日如来が祀られています。

また知恩寺は、寺の門のすぐ外にある四軒の茶屋で売られている、小豆ともち米を使った人気の「知恵の餅」の由来にも関係しています。